



皮の帽子、皮の手袋、マントを羽織り、ゴグルをつけて、くちばしのようなものがついているこのお方、十七世紀（日本では江戸時代の頃）のヨーロッパで「ペスト」という病気に闘っていたお医者さんです。

ペストにかかると、皮膚に内出血が起こるため、体が黒く変色して亡くなるので、別名「黒死病」と言われています。ネズミのノミからうつり、リンパがはれ、高熱、頭痛、吐き気、せきを伴い、死に至る恐ろしい病気です。

このお医者さんのくちばしのように見えるものは、実はマスクなのです。十五センチぐらいの長さで、中にハーブやハッカやバラが入っていて、直接外の空気を吸わないようにしていたようです。この当時、ペストという病気の原因が分からず、このような「防護服」を着ていたという訳なのです。

今のようなマスクの原型ができたのは、一八三六年のイギリス。ジェフリーズという

お医者さんが開発しました。布製で、中に金属の網のようなものが入っていたようで、両端につけられたひもを耳にかけて使っていました。

今現在のぼくたちの生活では、マスクをつけるのがルールのようになっていますが、さて、みなさんは「エチケット」、「マナー」、「ルール」の違いが分かりますか。

「エチケット」と言うと、遠足の時にバスにある「エチケット袋」を思い出します。周りの人に嫌な思いをさせないために、各個人が気をつけるためのお手本のようなものです。人に迷惑をかけないように、「せきエチケット」なんていう言葉もありますね。

マナーは、携帯電話の「マナーモード」とか、「テーブルマナー」などの言葉があるように、人に迷惑や嫌な思いをさせないように、個人というより、周りの人も含んだお手本で、エチケットよりもっと幅広いイメージ。

ルールは、「交通ルール」などという言葉があるように、エチケット、マナーよりも厳しく守らなければならないお手本のこと。交通ルールを守らないと罰せられます。

さて、電車やバス、教室内では、マスクをつけるのがルールのようになっています。つい最近、文部科学省という教育や学校に関するお役所から、熱中症を警戒して、体育や登下校の時は、極力マスクを外すようにルールを変更したと、子どもたちに伝えてください

と、連絡がありました。

マスクを外したい子も、外したくない子もいるでしょう。どっちを選んでもいいと思いません。どっちが良いとか悪いとかではありません。

ただ、暑くて、熱中症の「危険レベル」のような日は、マスクを外してもよいと先生たちが教えてくださいます。その時に外した人は、手にマスクをつけておいて、何かの時には、すぐ着けられるようにしておいてください。君たちがマスクを外して歩いていて、嫌な思いをされる方もいらっしゃるはずですよ。ご注意を受けた場合は、「嫌な思いをさせてしまつて、ごめんなさい。熱中症の危険があるので学校でマスクを外すように言われたので外していました。」と言つてください。

下校時、マスクをつけて帰りたいという人は、さつさと歩いて、なるべく早く日陰や建物の中に入るよう、心がけてください。言うまでもなく、道路、地下道などで、走る、大声を出す、たたき合う、車内の移動は論外です。マナー違反ではなく、ルール違反です！

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・  
これから三十度以上の気温の日が続くでしょう。本校では、マスクについて、それぞれ個人の選択を尊重することを、先週担任から子どもたちに伝えました。大人が多様性を尊重する姿勢を子どもたちに見せてあげて欲しいものです。（立教小学校校長 田代 正行）